1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600704		
法人名	社会福祉法人 長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホーム今里		
所在地	南松浦郡新上五島町今里郷251-32		
自己評価作成日	令和6年11月7日	評価結果市町村受理日	令和7年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和6年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年は施設内でコロナがはやり、敬老会のみゆめの郷と合同で行事を開催する事になってしまった。来年は、行事に家族の方がきていただけるよう頑張りたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

美しい自然に囲まれた環境の中で、地域の方と一緒に地域の行事を盛り上げてきたホームである。近年、新型コロナウイルスの影響や過疎化に伴い、以前のような地域行事の開催が減少している中でも、地域課題にあきらめずに取り組んでいきたいというホームの思いが窺える。閉校となった近くの小学校跡地に『こども未来交流センター』が令和7年度の開設に向け整備を進めており地域交流の再開に期待をしている。外国より技能実習生の受け入れ、多様な文化背景を持つ職員の言葉や文化の違いを理解し、職員教育にも力を入れている。昨日よりも、今日、今日よりも明日「もっと優しく」「もっと温かく」をホームのモットーとして入居者一人ひとりに寄り添い、入居者が自分らしく生きていけるように支援に努めており、当ホームの更なる取り組みに期待が持てる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、常に実践に繋がっている。	理念は常に掲示し、共有している。今年も施設内でコロナがはやり、敬老会のみホームと小規模合同で行った。	「もっと優しく、もっと温かく」というホームの基本理念を、リビング、事務所など、職員が目にする場所に掲示している。職員は自然とこの理念を意識し、入居者との接し方に活かされていると管理者より聞き取った。毎月のミーティングでは、日々の支援について振り返り、より良いケアの実践につなげ、職員へのヒアリングでも、この理念が日々の業務に根付いていることが確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍などで日常的な交流は、ほとんどありません。	小学校も閉校になり、つながりがなくなっている。行事を、事務所内にて実施しており、コロナ感染や職員不足もあり、地域との交流はまだできていない。	地域の方から野菜や魚の差し入れがあり地域住民との良好な関係が築かれている。ホームは自治会に加入し、年に2回の草刈りなどにも参加するなど自治会活動にも参加している。コロナ禍以前は地域の方と一緒に納涼祭や敬老会などを行っていたが、地域の役員も高齢化し、以前のように行事が実施できない状況である。管理者は地域課題に今後もあきらめずに取り組んでいく意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で、まず地域の方々と交流ができないので、あまり活かせてない。	まだ地域への情報発信はできておらず、運営推進会議において、内部研修の内容等を報告しているぐらいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、上司が行っている為、取り組みや状況報告出来ていると思う。	運営推進会議は、2ヶ月に1度必ず行い、役場からの情報があれば検討している。	運営推進委員会のメンバーは、役場職員、地域包括支援センター職員、郷長、家族代表、職員で構成され2か月に1回開催している。入居者の状況、行事報告会議の内容は毎回役場に報告書を提出している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	出来ていると思う。	役場の健康保険課の方が、運営推進会議に参加されており、地域包括の方から問い合わせがある。	運営推進会議の委員には町役場担当者も参加し、地域課題について活発な意見交換を行っている。ホームの視点だけでなく、地域全体の課題を共有し、より良い解決策を探ることを目指している。また、地域包括支援センターからは、ホームの利用を検討されている方からの相談や問い合わせが寄せられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、会議の中で内部研修を行っている。また、身体拘束の必要な入居者については、家族の同意をえている。	年に2回、内部研修で学ぶ機会を設けている。やむおえない場合は、家族の承諾を得ている。危険防止で行った事は、記録するようになっている。	日中、玄関は施錠していない。現在、身体拘束を必要とする入居者はいない。職員には、年に2回、身体拘束や虐待に関する研修を実施し、具体的な事例を交えながら、これらの行為が禁止されていること理解に努めている。	身体拘束適正化委員会のメンバーは揃っているものの、定期的な委員会の開催が確認できなかった。身体拘束適正化委員会の定期的(3か月毎)な開催が求められ、今後、運営推進会議と連携するなどして委員会の定期的な開催を行う仕組みを整備することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についても、年に2回内部研修で、学ぶ機会を設けている。月に1回のフロアミーティングで確認をしている。	虐待ではないかと思う事は、職員に常に注意している。月1回のフロアミーティングにおいて、虐待がなかったかを確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員へは必要があれば、全体会などで紹介している。	職員へは必要があれば、全体会などで紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	スタッフでわかりかねるところもあり、上司への確認なしでは勝手に判断できないので、上司へ確認を常に行っている。	介護支援専門員、管理者が担当し、納得していただけるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の中で、意見や要望があれば聞くようにしている。また、申し送りなどで情報は共有し、対応するようにしている。	家族の面会は、島外関係なく玄関先で行っている。家族からの意見があった際は、報告し改善に努めるよう努力している。	家族には、面会時や電話連絡の際に、様々な意見や要望を伺うようにしている。家族からいただいた意見や相談内容は、申し送りノートや会議などで職員間で共有し、サービスの改善に努めている。	入居時における重要事項として第三者評価の受審状況を家族等へ説明することが求められており、今後、重要事項説明書において第三者評価の受審状況が分かるように、第三者評価実施の有無、評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載することが望まれる。また、外部評価を通じて家族に対しアンケート調査を実施し、家族の意見等を汲み取る機会となる旨を説明し協力を求めることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や面談等を通じて、日頃から職員の意見を聞き、できるだけ対応しようとしている。	月2回の会議、その他勤務中において職員の意見や提案を聞き、反映させている。	毎月の会議では、入居者へのより良い支援方法や、楽しい行事の企画など、活発な意見交換が行われている。職員は、ホームをまるで家庭的と感じており、何か困ったことがあれば気軽に管理者へ相談できる雰囲気があると感じている。職員の意見が日々の運営に活かされ、より良いサービスの提供に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足が、最大の課題である。そのため、残業も多く、やりがいにつながることが出来ない事が最近ある。	個々の勤務希望に添える様、話し合いを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は毎月行われており、外部のリモート研修の参加などを行っている。	リモート研修など、取り入れ勧めている。また、リモートだけでなく、他の研修の情報が入り次第、適切に人材に案内している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のつながりがあり、地域がら他の事業所、施設とのつながりは深い。	オンライン研修ではなかなか難しいが、その場所に向いての研修では、他の施設や事業所とのつながりは深い。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方に関心、興味をもち、傾聴する事が大切なのかなあと実感する。	本人様と、対話しながら、困りごと、不安、楽しみなど聞く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る事、出来ない事、色々試している事、何でも話していくことが大切である。	家族の要望を文章に残し、話し合い、信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との関係も大事です。要望に耳を傾けながら、信頼関係を気づいています。	その時その時に応じて話し合い、サービスの変更も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能なかぎり本人の能力に応じて、テーブルふき、洗濯物をたたむなど日常の中で職員と一緒にできる声掛け、準備、配慮を行っているが、認知症の重度の方が多く1~2名の方に限られている。	洗濯物たたみのお手伝い、生活に必要な物の仕分け(ナイロン袋、新聞紙たたみなど)出来る事は、行っていた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば、家族等へ報告させていただいている。	現状報告をする事で安心して頂く。必要な物の購入を施設でもするが、家族へ依頼し、合うものを選んで頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時の情報、本人からの情報に意向、家族の意向等を確認しながら、人や場所の関係が途切れないような支援を可能な限り行っているが、本人の状況で難しいこともある。	家族との面会は、行っている。友人、知人、地域の方(地元)との交流は、疎遠になっている。HPの時に、偶然出会うこともある。	家族や友人との馴染みの関係を継続できるように、暑中見舞い、年賀状のやり取りを支援している。家族と連絡を取り合い、安否確認を行うとともに、昔からのつながりを大切にしている。家族の協力のもと、外泊や墓参りなど、思い出を共有できる機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操・レクリエーションなど、声掛けを行っており、体調すぐれない方は、居室で休んで頂いている。また、言葉かけなど、できるだけ行っている。	一緒に物づくりを行う。間に、スタッフが入り会話する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所については、職員で通夜に行ったり葬儀に立ち会うなどし、家族の方に声掛け、思い出話などグループケアのそうだんなどが出来る環境に配慮している。	入院が長引き契約が終了しても、外で会った時など話しかけるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の重度化により困難なケースが多いが、その場合でも本人本位を第一に検討し対応している。	認知症の重度化により、難しいことが多いが、できるだけ本人の希望にそうよう努力している。	職員は入居者との会話では、単に質問するだけでなく、「～したいですか？それとも～したいですか？」といった選択式の質問を心掛けている。入居者の思いや意向をより深く理解し、一人ひとりに合った支援を提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全ての暮らし方、100%は無理だが、それに近い生活環境に出来るサービスは行えている。	自宅で、どのような事をしていたのか本人、家族より聞き、近い状況に持っていきたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様に、出来る事はして頂いている。	個人の過ごし方は、おおむね把握できている。心身の状態は、日によって多少のr違いはあるので職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族は参加していないが、入居者様の課題などは、カンファレンスを行っている。	穏やかな生活が送れるように本人に傾聴し、職員同士話し合い、必要に応じてドクターの相談をしている。	入居者の介護計画は、職員全員で共有し、日々のケアに活かしている。計画内容が、実際の支援に合致しているか、定期的にモニタリングを行い、必要に応じて見直している。職員会議では、入居者の最新の状況を共有し、より適切な支援方法について議論している。管理者や計画作成担当者は、職員の意見を参考に、計画内容を改善し、一人ひとりの入居者の方に合ったケアを提供できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は行われている。日誌やメモノートにちょっとした様子、工夫など書き加える程度の情報の共有はできている。	申し送りノートを利用し、気づき、要望を記入し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望をできるだけ実現したいが、コロナ感染症予防とあいみえ、面会など行いました。	ご本人、ご家族の状況に合わせられる事は、他からの協力を得ながら対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員、ご家族での支援を行っている。本人が欲しいものを、職員が代行して買い物をしたりしている。	職員、ご家族での支援を行っている。本人が欲しいものを、職員が代行して買い物をしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時かかりつけ医の確認を行い、通院に北魚目診療所、若松診療所、奈良尾診療所、上五島病院その他歯科へ援助を行っている。	施設からすぐに受診対応できる病院へ移行して頂いている。	入居者が病院を受診される際は、職員が付き添い、バイタルデータなどの記録を基に、医師に正確な情報を伝えている。受診後は、家族へ、医師から説明を受けた内容や今後の治療方針などを電話で連絡し、入居者様の健康管理を行っている。職員間では、日々の記録や申し送りを通じて、入居者に関する情報を共有し、より良いケアを提供できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日、月4回訪問看護来られてます。	週1回の訪看で、気になる入居者様の病状等は、報告又は相談している。必要あれば受診へとつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供はできるだけすみやかに。入院生活で協力できることは行う。(選択支援)退院がスムーズにできるよう情報交換は、主任・ケアマネを通じて行っている。	状況の判断を病院と連携しながら連携室の担当の方と連絡をとりあい、退院後のことまで検討し、安心して入院生活ができるようにしている。早期に退院できる時はすぐに対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めに、医療・家族との話し合いをして、十分に支援できるようしています。	看取りに関しては、過去に数名行っている。医療行為を必要としなければ、施設での終末は可能であると説明している。	入居の際には、本人や家族と話し合いを行い、様々なケースについて丁寧に説明し、特に、重度化や看取りに関することについては、当ホームでできること、できないことなどを具体的に説明し、本人や家族の意向を確認した上で、意思確認書を交わしている。ホームでは、過去に看取りの経験があり、必要な場合には、家族や本人の希望に応じて、最期まで寄り添ったケアを提供できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変等の発生時は、マニュアルをもとに、落ち着いて行動するが、各職員に大声で助けてもらうようにしている。また、同時に他のフロアへ報告し、連携をとっている。	1年に1回、消防署での救命救急の研修に参加。ナースによる応急手当のやり方を学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練は、している。消火訓練も、消防署立会いにて、常にしていると思います。	年に2回、勉強会＋消防立ち会いでの訓練(1回)を行っている。	避難訓練は消防署立会いのもとで実施している。管理者は、コロナ禍で地域とのつながりが希薄になっている中、消防団への協力依頼なども検討していきたいと考えている。	今後、BCP(業務継続計画)の早期作成とBCPの研修や訓練(シミュレーション)を行っていくことが望まれ、更に、地域との連携を深め、研修や訓練を継続的に行うことで、より効果的な防災体制を構築することに期待する
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外国の方で日本語が話せない方には、翻訳アプリなど利用しながら、本人の意向を理解する努力をしています。本人からは、ここは住みよい様だとのお話を伺いました。	相手は年上だということを、常に念頭に置き、声掛けを行っている。	ポータブルトイレには目隠しをするなど、入居者のプライバシーに配慮した環境づくりを行っている。職員は、定期的な接遇研修を通じて、言葉遣いや声かけの大切さを学び、日頃から優しい言葉で入居者と接するように心がけている。また、外国籍の職員がおり言葉の壁を越えてコミュニケーション方法を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話しかけ、今どう思っているかを伺いながら、毎日を過ごすようにしています。自宅に行って様子を見たいとの希望があり、自宅前まで行き、しばらく過ごして帰ってきた事もあります。	どうしたいかはその都度問いかけながら、ケアを行っている。決定しやすいような選択肢の提供をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課はあるが、本人の意向を伺い、無理強いせず、ゆったりと過ごしていただいています。	その時の状況で、職員のペースの時間がある。なるべく入居者のペースでいきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人1人に、その人らしいおしゃれの衣類などするよう心掛けています。また、化粧水やヘアブラシなどを洗面所の手の届きやすい所に設置しています。	離床する際、受診時、行事等、似合う衣類を考えている。また、新しい服など購入し、着てもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭き、食材の下準備(皮むきなど)していただいています。	テーブル拭き・下膳の手伝いは、お願ひしています。たまに、入居者とホットケーキ作り行っています。	職員は、入居者と一緒にテーブル拭きなどを行い、食事の支度から片付けなど協力して行っている。食事は、専任の調理担当職員が手作りで、季節の食材を使った、栄養バランスの取れた食事を提供している。特に、ホームで栽培したサツマイモや玉ねぎを使った料理は、入居者に好評である。また、入居者の誕生日には、食べたいものをリクエストしてもらい、お祝いの会を開いている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提供した食事を食べれる様、形態をお粥、普通、きざみにかえて、栄養食品(ハイカロリージュース)の導入など医師の処方を受けている方もいます。	1人1人にあった食事形態を実施している。(粥・きざみ、量、水分制限など)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で義歯の洗浄ができなくても、洗浄液でのうがいや水分を飲んでいただくなど個々に応じて行っています。	自力にてできない方へは、うがい、ブラシ、口腔ガーゼ、歯間ブラシ用いて実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見、個人の排泄パターンからトイレの誘導タイミングをつかみ、排泄援助を行っている。	尿意、便意がある方は、ポータブルトイレ、トイレでの排泄介助を実施しています。無い方も、定時でトイレ介助実施している。(2時間ごとにトイレ誘導・パット確認実施中)	入居者一人ひとりの尿量や頻度に合わせて、適切な尿取りパッドを選定し、可能な方は自身で取り出せるよう工夫している。また、排泄のパターンを記録したチェック表に基づき、定期的にトイレへ誘導し、トイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食品や飲み物を、食事やおやつに取り入れたり、水分をとれるように工夫しています。また、病院と連携し、薬も使用しています。	内服薬や坐薬を使用したり、食物からの摂取、飲み物(腸括ココア、牛乳など)腸内環境を良好にするものを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日入浴を実施し、3~4日おきには利用できているが、実施は本人の希望を聞き、気持ち良く入浴できる様ペースや温度には気を配っている。	基本的には、午後入浴を実施しています。入浴中、昔の話を聞いたり、歌ったりしています。本人が拒否の場合は、無理せず様子を見ています。	入浴は週に2回以上を目安に行い、職員が入居者とゆっくり会話する大切な時間となっている。入浴を嫌がる場合は、無理強いせず、曜日や時間帯を調整するなど、一人ひとりの状況に合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコン、カーテン、ベッドの配置、家具の配置、証明、ドアの開閉など個人に合わせて実施している。また、本人がきつい時には、いつでも横になってもらうよう支援している。	眠気があれば休んでいただく。夜間眠れていなければ日中、少し休んでいただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、処方薬局の薬剤師などからの説明・指導を、服薬に関わる職員は情報共有できる様申し送り、個人記録で確認している。	薬が変わった時、初めて服薬する時は、注意深く観察し、記録に残しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好み焼きの買い入れ、月に一度のお買い物への援助を行っている方もいます。また、ドライブなども行っています。	コーラ、コーヒーなど好まれている方への提供したり、作品作り(刺繍)・ラジオを聴いたり、雑誌を見たりしています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食がしたいとの希望があり、車いすでも気兼ねなく利用できる店を選び、外出を援助した方もいます。また、天気の良い日は、何人がドライブに連れていったりしています。	散歩は、その日の状況によって行っている。お墓参りなど要望があれば、家族と相談し外出している。	気候がよければ、ホームのウッドデッキで外気を吸ったり、近所を散歩したりと、入居者の気分転換を図っている。本人の希望を尊重し、家族とも連携しながら、今年度は自宅への外出や墓参りなど、希望する場所へ出かけることができた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域がラスーパーなど近づく、必要なものは本人に伺ったりし、職員が購入している。お金はすべて管理できる方も少なく事務所で管理する方がほとんどである。	事務所の方で管理しているのが現状だが、ご本人が望まれるものや必要なものは職員が代行で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いたときのお礼の電話を本人と共にかけたり、話をして頂くこともあります。携帯電話を所持されている方もいます。	家族の都合にあわせて電話してもらうことあり。年に2回、年賀状、暑中見舞いを写真つきで葉書を送っている。LINEで、写真・動画を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りカレンダーを置いたり、毎月テーマの折り鶴・切り絵などがざり、季節感をだすなど工夫をしています。	季節がわかるように1カ月ごとに飾り作り行っています。たまに、入居者にも作っていただいています。	リビングには、入居者と職員が一緒に作った季節の飾り付けがあり、四季を感じられるよう工夫している。また、外国籍の入居者にも分かりやすいよう、浴室やトイレの表示を多言語化している。空気清浄機を設置し、室温や湿度を快適に保つことで、心地よい空間づくりを心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は、相性を考え配置している。1人になりたい時は、居室で過ごして頂いている	席はほぼ固定にしているが、必要に合わせて隣同志になり会話したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌や写真、自宅で使用されていた棚など可能な限り持ち込んでいただいています。	写真を貼ったり、使っていたものを置いたりしている。	居室には、ベッドやタンスなどの家具を備え付けており、自身の持ち込みの写真や仏壇、位牌などを飾って、自宅のように過ごせるよう工夫している。担当職員と入居者、家族と相談しながら、季節に合わせた衣替えや部屋の模様替えを行い、快適に過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日本語がわからない外国の方のために母国語でトイレやふる場など案内表示をされている方もいます。	トイレが頻回の方へは、近い居室を利用する事に対応している。精神的に不安定な方へは、居室のドアを少し開けておき、見守られている安心感を持って頂く。		